



雨の降る日が多くなりました。休み時間の過ごし方に困っている人もいるかもしれませんね。せっかくの機会ですから、学校図書館へ来てみませんか。じっくり読書をしなくても大丈夫。図かんをながめたり、クイズの本にチャレンジしたりするのもおすすめです。みなさんが来るのを待っていますよ！

がっこうとしよ かん
学校図書館のようす

<1年生> オリエンテーション、読み聞かせ、読書

<2年生> 読み聞かせ、図鑑の使い方、国語「むかしばなし」ブックトーク

<おひさま> 読み聞かせ、読書 などで利用されていました。

むかしばなしクイズ

村のはずれに住むおじいさんとおばあさんが、この世で一番こわいのは、どろぼうでもなく、おかみでもなく、「ふるやのもり」。さて、「ふるやのもり」とは何のことかな？



- ① 「ふるやのもり」という名前のミミズのお化け
- ② まものがある古い森
- ③ 古い家の雨もり

答えは、おたよりの裏面、または本で確かめてね

どくしょかんそうばん か だい と しよ
読書感想文コンクール課題図書

読書感想文全国コンクールの課題図書が、これから各クラスへ順番に回ります。夏休みの宿題で挑戦しようかなという人は、ぜひ手に取ってみてください。

どくしょかんそうばん か だい と しよ しようかい 読書感想文コンクール課題図書の紹介

1、2 ねんせい

『アザラシのアニュー』 あずみ虫/作, はたこうしろう/絵, 童心社



寒い冬の白、タテゴトアザラシの赤ちゃんが生まれました。名前にはアニューです。アニューはお母さんのおちをたくさん飲んで、どんどん大きくなっていきますが、生まれて2週間がたったころ、おかあさんが北極の海に行ってしまいました。ひとりぼっちになったアニューは、自然の中でどのように生きていくのでしょうか。

『ごめんねでてこい』 ささきみお/作・絵, 文研出版



大好きなおばあちゃんに「きらい」と言ってしまった、はなちゃん。謝りたいのに、「ごめんね」という言葉が出てきません。そんなある日、おばあちゃんが救急車で病院に運ばれて入院することになった！おばあちゃんにひどいことを言っちゃって、お見舞いになんか行けないよ。でも、このままでいいのかな…。

『おちびさんじゃないよ』 マヤ・マイヤーズ/ぶん, ヘウオン・ユン/え,



まえざわあきえ/やく, イマジネーション・プラス

あたしおちびさんじゃないっ！！

テンちゃんは、体は小さいけれど、なんだってできる。だから、おちびさんとはちがうんだと思ってる。そんなある日、テンちゃんよりも小さい(かもしれない)マルくんという転校生がいじめっこにからかわれているのを見て…。

『どうやってできるの？チョコレート』 ひさかたチャイルド

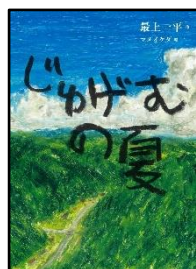


みんな大好きチョコレート！普段何気なく口にしていますが、どんなふうになられているかは、なかなか自にすることができませんよね。こちらの絵本では、原料のカカオから板チョコレートができるまでが、美しい写真としかけによって分かりやすくかかれています。なんだかチョコレートが食べたくなってきた！

ねんせい 3、4年生



『いつかの約束1945』 山本悦子/作, 平澤朋子/絵, 岩崎書店
「あたしは、関根すず。9 さい!」ある日、ゆきなとみくが会ったのは、自分は9 さいだと言うおばあちゃんだった。この人は、いったい、どこのだれ!? マングみたいで心が入れ替わったのかも! というゆきなの思い付きから、おばあちゃんの体の持ち主を探しに、3人はいっしょに町を歩き回ることになる。



『じゅげむの夏』 最上一平/作, マメイケダ/絵, 佼成出版社
筋ジストロフィーの親友、かっちゃんの夢は、落語家になること。お気に入りの演目「じゅげむ」を、ぼくらは何回も唱えてきた。最近歩くのが難しくなってきたかっちゃんだが4年生の夏休みは「最高の夏休み」にしたいそうだ。「最高とは冒険だとおもうわけ。だから、4年生の夏は冒険だよ!」—さあ、ぼくと一緒にわくわくドキドキするような冒険に出かけよう。



『さようならプラスチック・ストロー』 ディー・ロミート/文, ブュエ・チェン/絵, 千葉茂樹/訳, 光村教育図書
「飲み物に浮くごみを避けて中身だけ飲めないだろうか?」大昔、そんな困りごとから、ストローは誕生しました。植物の茎を使っていたストローは、やがて紙製に。それから、もっとじょうぶなプラスチック製に…。その時々「問題」が解決されて進化してきたのが、ストロー。だったら、今ある「地球環境問題」だって、きっと解決できるはず。さあ、みんなで考えてみよう!



『聞いて聞いて! 音と耳のはなし』 高津修/文, 遠藤義人/文, 長崎訓子/絵, 福音館書店
どうして声や音が出るのだろう? どうしてそれが聞こえて、「これは〇〇の音だ!」と判断できるのだろう? そんな音や耳の仕組みを、分かりやすく教えてくれる絵本です。理科の世界にじっくり浸かって、身の回りの不思議に耳を澄ませてみませんか?

ねんせい 5、6年生



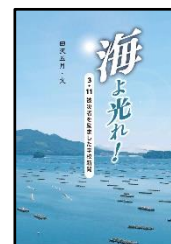
『ぼくはうそをついた』 西村すぐり/作, 中島花野/絵, ポプラ社
リョウタは 5年生の夏に初めておじいちゃんから、ヒロシマの原爆で亡くなったおじいちゃんのお兄さんの話を聞きました。一方、6年生のレイは、ひいおばあちゃんが今も、原爆で亡くした息子を探している姿に胸を痛め、力になりたいと思っています。家族を通して原爆に思いを寄せた時、リョウタとレイがとった行動、そしてついた「うそ」とは一。『ドアのむこうの国へのパスポート』 リンデ・ファース/絵, 西村由美/訳, トンケ・ドラフト/作, リンデルト・クロムハウト/作, 岩波書店



担任の先生の知り合いの作家の家には、なぞめいたドアがある。ドアの向こうには、特別なパスポートを持った人しか入れないという。クラスの子どもたちは作家と手紙を交わしながら、パスポートやビザの申請といった課題に向き合ううちに、クラスの仲間や自分をより深く知っていく。



『図書館がくれた宝物』 ケイト・アルバス/作, 榎田理絵/訳, 徳間書店
戦争中のロンドン。両親のいない2人の兄と妹の3人兄妹は、戦火を逃れるため、また、「保護者」になってくれる人を見つけるため、疎開します。けれどもそこで待っていたのは、いじめ、空腹、寒さ、そして味方のいない日々。過酷な毎日で唯一の救いになったのは、村の図書館でした…。理不尽な環境の中でも希望を失わず支え合う兄妹は、真の「保護者」を見つけられるのでしょうか。心が温かくなる物語。



『海よ光れ! 3・11被災者を励ました学校新聞』 田沢五月/文, 国土社
東日本大震災で大きな被害を受けた岩手県山田町。地域の人たちは、高台にある大沢小学校に避難し、この困難を乗り越えるために力を合わせます。地域の被災者といっしょに学校で寝泊まりをしていた子どもたちは、その姿を見て、自分たちには何ができるのか考え、行動します。震災や津波を受けた当時の厳しい現実を描きながらも、子どもたちのまっすぐな思いがまぶしく光るノンフィクションです。